

第 94 回 生体制御学セミナー

埼玉大学・埼玉県立がんセンター交流セミナー

治療抵抗性尿路上皮がんにおける PDGFR β -STAT3 経路の役割

安藤 清宏 先生

埼玉県立がんセンター 臨床腫瘍研究所 副部長

日時:2026年2月20日(金)16:00~17:00

場所:理学部2号館8番教室

講演内容

進行尿路上皮がん(大部分は膀胱がん)患者の治療は近年他のがんと同様に、化学療法と免疫チェックポイント阻害剤との併用治療にパラダイムシフトされつつありますが、転移・再発例の治療予後は未だ不良です。我々は免疫チェックポイント阻害剤のペムブロリズマブ治療を行なった患者の治療前の末梢血液データから算出する血小板/リンパ球比 (PLR, platelet-to-lymphocyte ratio) の高値が予後不良と関連することを報告しました。血小板増多と治療予後不良との関連は多くのがんでは報告されており、血小板はがん微小環境において増殖因子の直接的な供給源になりうると考えられます。我々は膀胱がんの治療抵抗性における血小板由来増殖因子受容体 (PDGFR) とその下流の転写因子 STAT3 とのカスケードがもつ機能的役割と、これを標的とした治療が予後改善に期待できる可能性に着目して一連の研究を行っています。

Kurashina et al., Anticancer Res. 2022 Feb;42 (2) :1131-1136.

Kurashina et al., Cancer Diagn Progn. 2023 Mar;3 (2) :230-235.

Ando et al., Biochem Biophys Res Commun. 2023 Oct;676:165-170.

Fuchizawa et al., Anticancer Res. 2024 May;44 (5) :1925-1930.